Ⅰ　市勢の概要

１　沿　革　・・・・・・・・・3
２　人口・世帯数・・・・・・3
３　市域の変遷　・・・・・・3
４　気　候　・・・・・・・・・4

1　沿　革

「太陽と緑」に象徴される宮崎市は、九州の東南部太平洋岸に位置しており、南北に36㎞にわたる海岸線を有し、太平洋に沿って流れる黒潮によって温暖な気候風土に恵まれ、美しい松の大樹海の一ツ葉海浜をはじめ、亜熱帯植物の繁茂する青島や国定公園日南海岸に連なる風光は、まさに南国的色彩に富んでいる。

本市は大正13年4月1日に旧宮崎郡宮崎町、大淀町及び大宮村の廃置分合を行い、市制を施行した。当時は、面積45.15㎢、人口42,920人の田園都市であったが、その後5次にわたって周辺町村との合併が行われた。以後、着実に発展を続け、平成10年4月には中核市に移行、平成18年1月1日には、近隣の佐土原町・田野町・高岡町の3町と合併、また、平成22年3月23日には清武町と合併し、人口約40万人、面積644.61㎢の新宮崎市が誕生し、県都として、また南九州の中核都市として、教育、文化、交通等あらゆる面にわたって発展を続けている。

平成26年度には、「連携中枢都市」を宣言し、国富町及び綾町と連携協約を締結した。令和7年度からは、社会経済情勢の変化等を踏まえ、圏域の目指すべき将来像と、その実現に向けた取組を示した「第3期みやざき共創都市圏ビジョン」がスタートし、本市が中心となって圏域の経済を力強くけん引し、新規創業の促進や戦略的な観光施策を推進することで、人口減少下においても、圏域の経済の活性化や公共サービスの確保を図ることとしている。

さらに令和6年4月1日には、市制施行100周年を迎え、次の新たな100年に向けたまちづくりを進めるため、令和6年度末に「第六次宮崎市総合計画」を策定した。同計画は、人口減少対策に重点を置いた、市政を総合的、かつ計画的に進めるための本市のまちづくりの指針であり、最上位の計画となる。令和7年度から新たな将来の都市像である『挑戦し、成長する　開かれたまち　～OPEN　CITY　MIYAZAKI～』をコンセプトに、将来にわたり持続可能なまちの実現に向け、取り組んでいる。

2　人口・世帯数

区　　分	人　　口			世 帯 数	1世帯当り人　員
	男	女	計		
令和8年4月1日	183,779	205,360	389,139	189,142	2.1

人口及び世帯数は、国勢調査の結果を基礎として住民基本台帳法の規定に基づき、毎月届出のあった出生、死亡、転入、転出等の数を集計して推計しています。

3　市域の変遷

年　月　日	面　　積	経　　緯
大正 13年　4月　1日	45.15 ㎢	市制施行（宮崎町、大淀町、大宮村）
昭和　7年　4月 20日	61.19	檍村合併
昭和 18年　4月　1日	87.57	赤江町合併
昭和 26年　3月 25日	223.99	瓜生野村、倉岡村、木花村、青島村合併
昭和 32年 10月　1日	251.58	住吉村合併
昭和 38年　4月　1日	285.91	生目村合併
平成 13年 10月　1日	286.99	公有水面の埋め立て
平成 15年　7月 31日	287.07	公有水面の埋め立て
平成 16年　1月 15日	287.08	公有水面の埋め立て
平成 18年　1月　1日	596.79	佐土原町、田野町、高岡町合併
平成 22年　3月 23日	644.61	清武町合併
平成 26年 10月　1日	643.67	国土地理院による面積の算出方法の変更によるもの
令和　3年　1月　1日	643.54	国土地理院による海岸線の修正によるもの
令和　4年　1月　1日	643.57	国土地理院による海岸線の修正によるもの
令和　4年　7月 11日	643.57	公有水面の埋め立て
令和　6年　4月 10日	643.57	公有水面の埋め立て

4　気　　候

本データは宮崎地方気象台の観測値である

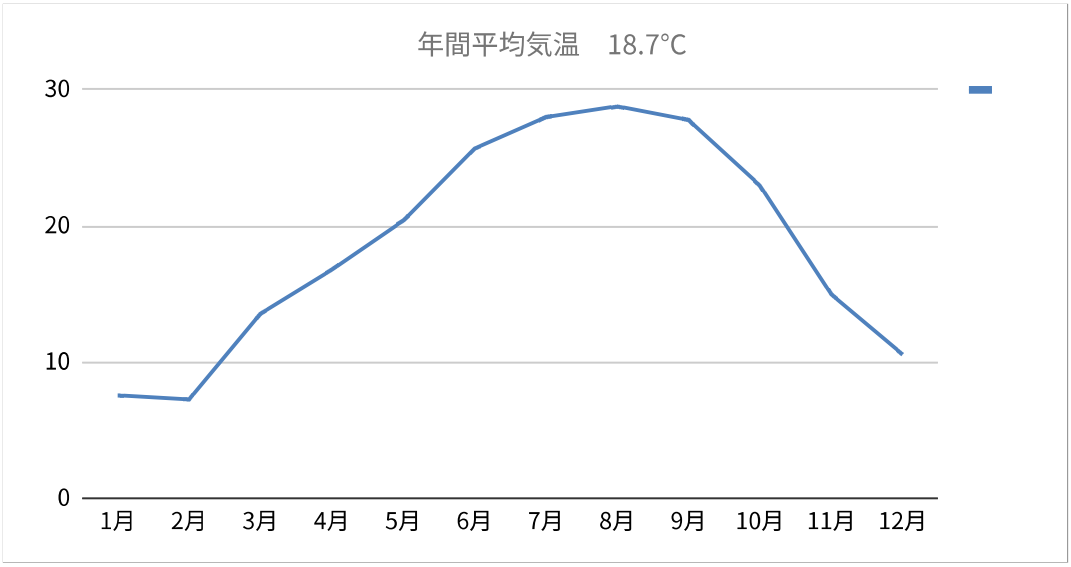
（1）令和７年 気候数値

平 均 気 温	降水量（年間）	日照時間（年間）
18.7℃	2152.5㎜	2339.3時間

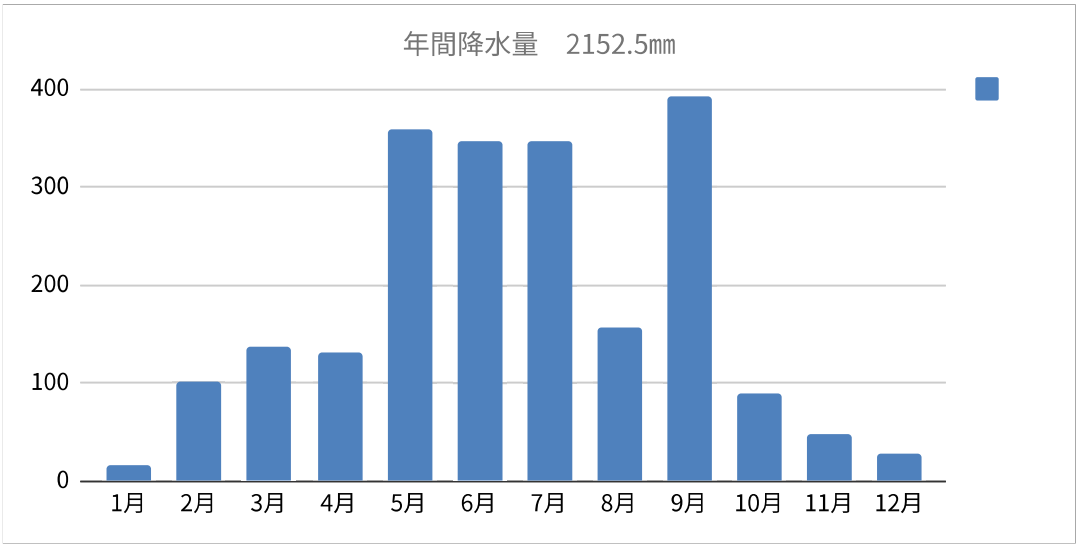
（2）令和７年 平均気温

（単位：℃）

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
7.6	7.3	13.6	16.8	20.4	25.7	28.0	28.8	27.8	23.0	15.0	10.6



（3）令和７年 降水量

（単位：㎜）

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
17.0	102.0	136.0	131.5	358.0	346.5	346.5	157.0	392.5	89.5	48.0	28.0